

調査解析 4

化学物質の影響把握と緊急事故対応のための基盤構築

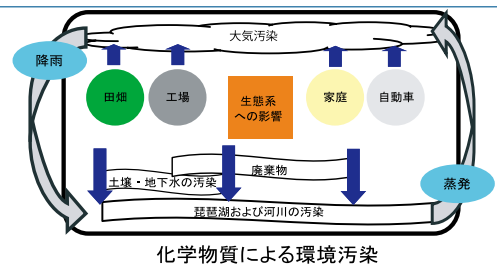
琵琶湖流域において不足する未規制化学物質の有害性等に関する情報を得るため、複数の化学物質を対象とした一斉機器分析法を確立し、同手法を用いたモニタリングによるリスク評価を行います。また、個別の化学物質の濃度では評価が難しい化学物質総量としてのリスク評価を行うため、生物を用いた生態影響試験法についての検討を行います。さらに、これらの技術を活用し、緊急事故対応に資する手法を確立し、環境面での危機管理の強化につなげます。

<サブテーマ>

- ・未規制化学物質の一斉分析による実態把握
- ・生態影響試験法の活用方法についての検討
- ・緊急事故対応のための基盤構築

【現状における課題】

- 不足する未規制化学物質の情報
- 増加する環境基準・要監視項目への対応
- 個別の化学物質濃度では捉えられない影響評価
- 化学物質流出による水質事故対応への備え



【課題解決に向けた対応】

1 未規制化学物質の分析法の確立と検出状況の把握

- LC/MS、GC/MSを用いた未規制化学物質の一斉機器分析法の確立
- 同法を用いたモニタリングによるリスク評価

個別化学物質のリスク評価



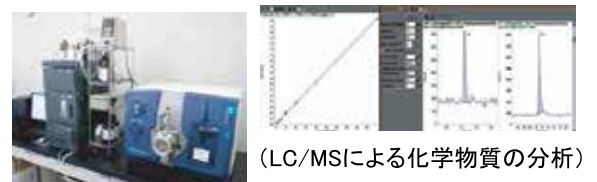
3 緊急事故発生時の原因究明と影響把握

- LC/MS データベースライブラリの作成
- ゼブラフィッシュによる急性毒性試験マニュアルの作成

2 生態影響試験等の精度向上と活用方法の検討

- 国が導入を検討しているWET試験法の技術確立と試験精度の向上
- 同試験の有効活用方法の検討

化学物質総量としてのリスク評価



- 個別の化学物質および化学物質の総量としてのリスク評価
- 環境面での危機管理対応の強化